

様式第2号(第7条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		川島町小中一貫教育推進協議会 (全体会議・令和7年度・第1回)
開 催 日 時		令和8年2月9日(月)午後3時30分～午後5時10分
開 催 場 所		川島町役場 2階 大会議室
議 事		1 会議の公開について 2 会議録及び会議録署名委員の指名について 3 つばさ小・川島中における成果と課題について 4 令和7年度小中連携事業について
公開・非公開の別		☒ 公 開 ・ ☐ 非公開 ・ ☐ 一部非公開
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
主 催 者	委 員	【1号委員】小坂井啓二 【2号委員】山崎清美、金子美里 佐藤香織、佐野公洋 森田大輔、原 一芳、小林義知、松井将太郎 石川陽一 【3号委員】井手口史穂 【4号委員】矢部英男 【5号委員】鈴木克史、矢田堀実香
	事務局職員	関口教育長、田中教育総務課長 平岡小中一貫・授業改革・部活動地域連携指導幹 井上指導主事、道祖土主幹、石黒主査
	傍聴者	なし
配 布 資 料		資料1 第4期 川島町小中一貫教育推進協議会委員名簿 資料2 川島町小中一貫教育推進協議会設置要綱 資料3 つばさ小・川島中における成果と課題について 資料4 小中連携事業について
1 開会 2 委嘱状の交付 3 あいさつ 川島町小中一貫教育推進協議会 佐藤会長 川島町教育委員会 関口教育長 4 副会長の選出 西中学校 佐野校長(2号委員) 5 議事 (1) 会議の公開について 公開することに決定した。 (2) 会議録及び会議署名委員の指名について		

金子美里委員（２号委員）と佐野副会長（２号委員）の２人に決定。
【委員の質疑、意見】特になし

6 説明

（１）つばさ小・川島中学校における成果と課題について、佐藤会長より資料３を用いて説明した。説明終了後、委員による質疑応答等を行った。

【委員の質疑、意見】

委員 伊草小学校児童の分散進学については、小中一貫校推進の検討段階からの課題であったかと思います。見方によっては、児童たちが新たな課題にチャレンジする、といった見方もできるでしょうが、保護者の立場で考えると、一概にそうとも言えない。長い時間をかけても良いので、学区編成などについて考え直していただけるとありがたいです。

委員 川島中学校として、伊草小学校出身の生徒への配慮のために躊躇してしまう、という話について、そのとおりだなと思います。そのためにも、小小連携をできるだけ行い、小学校の段階から伊草小、つばさ小の児童が関わりをもつことが大事だと思います。

委員 川島の子どもたちは、競争心が欠けていると言われますが、つばさ小の児童はそれに気付き、競争心が芽生え始めている中で、伊草小は１年生から６年生まで単級で持ち上がってしまい、そのような環境下では、競争心よりも協調性を重んじてしまうように感じている。また、伊草小の児童数は各学年、ぎりぎり１クラスで、つばさ小はぎりぎり２クラス。彼らが中学生になって、つばさ小の子どもたちと一緒になったとき、競争心でも、教育面でも取り残されてしまうのではないかと不安です。

委員 各校の連携事業について、とても素敵だと思う一方、伊草小の児童だけが学区により、別々の中学校に分かれ、途中から合流してくるような心細い思いで進学してしまうのは、とても寂しく感じます。
小小連携により、少しでもその不安を取り除ければ良いです。
交流事業についても、バスの問題等ありますので、計画的に、オンラインを利用しながら行うなど、検討していくと良いと思います。

事務局 本協議会では、子どもたち、保護者の声を聞き、それを踏まえた研究を行っていくものですので、伊草小の分散進学については、別組織を設けて研究していきたいと考えています。

委員 交流事業にて、西中学校教員が小学校に出向いて授業を行っておりますが、十分な職員数が確保できていれば可能な事業です。基本的には、中学校教員は中学校の授業を行っているので、人員が確保できなければ、年度によっては対応できないこともあります。小中一貫を推進するのであれば、教員の人員確保にお金をかけていただきたいと思います。

また、オンラインによる交流については、音声が途切れたり、画像が粗かったり、と通信環境によって難しいと感じます。

小小連携についても、バスを出す必要があるため、予算の関係上、回数や内容も限られてしまう。

7 協議事項

(1) 令和7年度小小連携事業について、事務局より資料4を用いて説明した。

説明終了後、委員による質疑応答等を行った。

【委員の質疑、意見】

委員 説明のあった事業については、各校で共有されていますか。

委員 されています。

事務局 小小連携について、例えば、バスを借りて移動となると、頻繁に行うことは難しいかもしれませんが、オンラインを活用して各校の取り組みを紹介するような交流も良いと考えます。

委員 前協議事項にて、オンラインによる通信環境が悪いという話がありましたが、いまだきそんなことがあるのですか。もし本当なら、設備面の見直しを考えた方が良いのではないのでしょうか。ヒトが動くとも時間もお金をかかるので、オンライン上で行えれば一番良いと思います。

事務局 今年度、川島中学校でネットワークの環境調査を行っています。基本的に、各校で同じ通信環境となっておりますので、何か問題があれば、早急に改善を図ります。ただし、環境の更新となるとかなりのコストがかかるため、国の補助金なども上手く活用していきます。

委員 川島町は遊ぶ場所が少ないが、子ども同士で遊ぶことはとても良いことだと考えています。つばさ小の児童は放課後、学校で遊ぶことはできるのでしょうか。

委員 放課後は中学校が部活動を行っているため、開放はしておりません。

委員 つばさ小にて、小学一年生の体力がないので、中学生と体育の授業を行ったとのことですが、体力低下の要因は、バス通学であったりしますでしょうか。何か分析をしているのでしょうか。

委員 分析はしておりません。ただし、今まで徒歩で通学していたルーティンが、「バスに乗る」という便利でありがたいものとなり、それが「安全・安心な通学」に置き換えられてしまったために、児童の体力低下につながることが懸念されております。
いずれにせよ、自宅と学校に距離があるため、バス通学に切り替わり、歩く機会が減っている、ということは学校の統廃合に伴い、全国的に発生している問題です。

委員 施設一体型へ向けて準備をした2年間と、統合して1年の3年間、委員として関わってきた中で、準備の2年間に関しては、児童、生徒たちの9年間でどのようにしていくか、という前向きな協議ができた。その場で色々な方の意見を聞いたことにより、統合初年度である今年度をどうにか乗り越えることができた。しかし、昨年度の3月頃から「施設を作ったのだから、あとは学校で全てやってください。」というような丸投げ感をすごく強く感じます。小中一貫を推進していきたいのであれば、今回の協議会が令和7年度の1回目ではなく、学期毎に1回ずつ行い、少なくとも3回目ではなくてはいけなかったのではないですか。

今回の協議会も「この1年間、こんなことを行ってきました。」ということ報告しただけで終わってしまっている。もっと細かくアイデアを出す場を設定していただきたい。統合1年目である今年度がすごく大事であったはず。2年目から「新しいことをやってください。」ということは難しいと感じます。やりたいことはあるのに、進めてよいのかわからない。全員が前向きに進んでいけるよう、しっかりとしたシステムづくりを望みます。

事務局 「学校教育」の中で「小中一貫」を問うのか、あるいは様々な場での交流を含めて進めていくのか、考えていく必要があるかと思います。また、統合初年度ということで、学校としての経営方針や方向性などを踏まえつつ、動いていると思いますが、初期段階、充実期、熟成期などと分けながら、2年間毎に動いている場合もあると思いますので、それぞれの学校長がやりやすい意見を聞きつつ、組織を組み替えていくことも、今後一緒に検討していければ良いと考えています。

8 講評

小坂井委員

日高市では、伊草小のような分散進学はなく、それと比べれば、小中一貫教育について進めやすい状況ではありますが、小中一貫教育の目的は同じはず。単なる数合わせでつばさ小に統合した訳ではないはず。やることはたくさんありますが、全てに手を出そうとすると、先生方がパンクしてしまいますので、急がず、1つずつゆっくり進めていくことが大事です。

日高市では、それぞれの地区の学校にて、それぞれの取り組みを行っており、各学校の校長先生がどのような考えをもって、義務教育学校を運営していくか、が如実に表れています。

また、前期、後期の職員で意見がぶつかることもありますが、それも1つのお互いの理解であり、その中でどうしていくか、ということが無ければ、小中一貫教育は進みません。教育課程は各学校が決めるものです。子どもたちに対する、こうしてあげたい、こうなってほしい、という願いのもとに進めていくことこそが、教育課程の編成です。

また、伊草小学校出身の生徒への配慮のために、川島中学校とつばさ小学校の交流を躊躇してしまうという話もありましたが、どんどんやってください。それによって、伊草小学校の生徒たちを阻害するような中学生ではあってはならない。非認知能力が高まり、みんなのことを考えて行動することのできる生徒を育てること、それも小中一貫教育の大きな狙いの1つです。

施設分離型の場合も、一体型で実施していることを見て、どのようなことができるかを吟味し、1つずつ実施してください。

最後に、小中一貫教育の狙いとして、4・3・2制がありますが、そのうちの、「3」である「5, 6, 7年生」のつながりをしっかり見ることによって、中1ギャップの解消や、不登校の減少に繋げることができます。これらの学年に対し、生徒指導上や学習面にて、どのように接していくか、そこを突破口として、子どもたちの力を伸ばしていきましょう。

9 閉 会
佐野副会長

署 名

金子 美里

佐野 公洋

